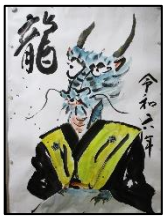
小谷小だより

第　10　号
令和６年
１月16日

E-mail:kodani-sho@city.higashihiroshima.hiroshima.jp

あけまして　おめでとうございます



後期後半が始まり，２週間が経ちました。この3か月は，学年のまとめと次の学年への準備の時期でもあります。とりわけ，６年生にとっては「卒業」そして「中学校」へ向けての大切な時間となります。一人一人の児童が未来に向かって，よいスタートができるよう，教職員一同全力で頑張ります。

本年も学校教育へのご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

※毎年まちづくり協議会の皆様に門松を作っていただいております。子供たちが日本の伝統文化を学ぶ良い機会となっています。また，地域の方より干支の作品をいただきました。たくさんの方々に子供たちが見守っていただいていることに感謝します。

校内書初め大会　～一文字一文字，真剣に～

１月10日（水）に校内書初め大会がありました。子供たちは，一文字，一文字をどっしりと力いっぱい書いていました。真剣な顔には，この一年間に向けての気持ちがとてもよく表れていました。冬休みにしっかり練習した成果が十分に発揮されていました。１年生と２年生は，硬筆，３年生以上は，毛筆で次のことばを書きました。

１年生は，　「おめでとう。」と，大きなこえであいさつをしました。
２年生は，　新しい年をむかえ，大きな声で元気よくあいさつをしました。
３年生は，　生きる力　　４年生は，　元気な声
５年生は，　心を開く　　６年生は，　希望の朝
やまびこ学級は，それぞれの学年の字に挑戦をしました。

子供たちの真剣に取り組む姿は，大変立派でした。これからも，集中して物事を成し遂げる力を高めてほしいと思います。

邂逅の謝念　～全ての出会いに感謝を～

「邂逅（かいこう）」「謝念（しゃねん）」という言葉をご存じでしょうか。「邂逅」とは「思いがけなく出あうこと　偶然の出会い　めぐり合い」という意味を「謝念」とは「感謝の心」を表しています。

「邂逅と謝念」という言葉は，私が教諭のころの校長先生がその時の先生方に話されていた言葉です。もともとは有名な文芸評論家の言葉なのですが，大変お世話になった方だったので，その校長先生の言葉として心にとどめています。「偶然の出会いにより，集まったこのメンバーで仕事をしていく。この一瞬一瞬は大変貴重な瞬間であり，二度と戻ってくることはない。感謝の心をもって，一瞬一瞬を過ごし，みんなでより良い学校を作っていこう」というものでした。今でもその校長先生をはじめ，その時の先生方には大変お世話になっています。また，さまざまな学校で出会った先生方のおかげで，今の自分があるといつも思っています。

さて，学校を見たとき，子供たちにも「邂逅と謝念」を感じてもらいたいと考えています。偶然の出会いで集まった仲間が影響しあって，成長していきます。うれしいこともあるでしょうし，時にはつらいこともあるかもしれません。しかしながら，この「邂逅」がなければ，そう感じることもできなかったことになります。この「邂逅」がなければ，自分を成長させることはできなかったことになります。また，さまざまな「邂逅」によって存在する「自分の命の大切さ」「目の前の命の大切さ」も感じてもらいたいと考えています。命も，「邂逅」によって生み出されていますし，家族も「邂逅」によって成り立っています。

命に「感謝」，家族に「感謝」，クラスのみんなに「感謝」，地域の人に「感謝」，先生に「感謝」・・・。そうやって「感謝」の輪が広がり，穏やかで安心でき，自分を発揮できる学校をこれまで以上にめざしていきたいと考えています。

校長　山田　　隆